

令和7年度 第4回八潮市公共施設マネジメント推進委員会

開催日時	令和8年1月9日(金) 午後2時00分から 午後3時25分まで	開催場所	保健指導室
出席者 〔敬称略〕	〔1号委員〕松本暢子、大谷基道 〔2号委員〕小川由利子、宮本安江、田中恵子		
欠席者 〔敬称略〕	〔2号委員〕會田孝雄	傍聴者数	0人
審議内容及 び審議結果 の概要	<p>【令和7年度 第4回八潮市公共施設マネジメント推進委員会】</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会 議 議 事(議事進行:委員長)</p> <p>(1) 市民アンケート調査結果報告書(詳細版)について</p> <p>(2) 公共施設マネジメント基本計画の素案について</p> <p>(3) 公共施設マネジメントアクションプランの素案について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>		
提供資料	<p><配布資料一覧></p> <p>資料1:令和7年度第3回 八潮市公共施設マネジメント推進委員会 資料</p> <p>《ファイル資料》</p> <p>① 八潮市公共施設マネジメント推進委員会 委員名簿</p> <p>② 八潮市公共施設マネジメント推進委員会規則</p> <p>③ 八潮市附属機関の会議の公開に関する規則</p> <p>④ 八潮市公共施設マネジメント白書・八潮市公共施設マネジメント基本方針概要版</p> <p>⑤ 八潮市公共施設マネジメント基本計画概要版</p> <p>⑥ 八潮市公共施設マネジメントアクションプラン概要版</p> <p>⑦ 八潮市公共施設マネジメントアクションプラン見直し版</p>		

《議事詳細》

1 開会

2 会議

(1)議事

1)市民アンケート調査結果報告書(詳細版)について

前回速報版として報告した市民アンケート調査結果について、詳細版として、年齢別、地域別でクロス分析した結果について説明した。また、第2回会議で提案を受けた18歳未満のアンケートについて、八潮南高校1年生を対象に調査を行い、その結果について説明した。

〔委員長〕

庁舎は新しく、オープニングイベントをしたこともあって利用しているとの回答が多い。次点は図書館となっている。利用したことがないと回答した方も多いことがアンケートで確認できた。60歳以上だと利用しているという回答が多いが、他の年代の皆さんは時間がないのだと思われる。地域差はあまりないのかなと感じた。

〔事務局〕

稼働率で見ると、一部低いところもあるが、高い施設が多いのは利用者が固定していることが大きな要因と考えている。

施設を予約する方法を知らないという方もいると思われ、どう周知するかという面での検討も必要である。一度使った方は便利に感じていただけていると思うが、構造的な課題もあるのではないかな。

また地域別に大きな差はなく、当市がコンパクトな街であるという点が、こうした結果に表れていると感じる。

〔委員長〕

利用する必要がないと回答があった施設について、保育所や高齢者福祉施設など対象者が決まっている施設については理解できる。それ以外の施設について、利用する必要がないからいらぬのかとなると、そうではない気がする。利用してもらうための努力が必要になってくる。

〔事務局〕

仕事をしている方の余暇時間に、公共施設が利用されていないと感じる。反対に、

普段から利用している人にとってはないと困るといった意見も、全体からすると少ないが一定数いることがわかった。

〔委員〕

長く八潮市に居住していれば公共施設の価値を感じられると思うが、一方で、若い人、特に学生にとってはそうではないようだ。年代別と居住年数によっても違うのかなと感じた。市境に住んでいれば他市の公共施設が近いので、相互利用が可能である。大きい道路を超えて市内の公共施設を利用することがないので、地域性があると思う。5市1町で受け入れてくれるので、相互の市民が気持ちよく使用することができる。

〔事務局〕

5市1町統一の予約システムがあるので、他市利用のハードルは低くなっている。

また、今回、必要性が低いと評価されてしまった博物館について言えば、市内小学生は社会科見学で資料館に行くので、委員の指摘のとおり、昔から八潮に住んでいる方にとっては身近な施設だと思う。

機能面、使い方など、『こういったものがあるのだ』と、選択肢の一つとして市民の方に周知していく必要があると感じている。コミュニティに属している方は、そうでない方と比較して公共施設を利用する傾向にあるが、時代の流れや転入者が多いことなどもあり、コミュニティに属していない方が増えてきている。

〔委員〕

イベントを開催していれば公共施設に行くが、自分で施設を予約して利用することはない。もっと「ここでこういうことをやっているよ」というのがあれば活用されると思う。先日行われたスポーツフェスティバルのように、A会場、B会場と複数で開催していると訪れる機会が増えると思う。

〔事務局〕

イベントをきっかけに周知していくことは、有効であると考えている。

〔委員長〕

市民の方に知っていただくきっかけを作っていくのは大事。新庁舎を整備する際、調理室というのは市内に複数存在しているがあまり使われていなかったもので、保健センターの合築に伴い調理室を市民から見える位置に整備したと思う。市の事業だけでなく、

市民に使ってもらうための機能を整備したと、この委員会でも話が出た記憶している。

〔事務局〕

栄養指導室という名前で、市の事業で使わない時には一般に貸し出せる部屋として整備した。転入者に冊子を渡すなどして周知しているが、なかなか使われておらず、広まっていないと感じている。

〔委員〕

紙で渡されても、あまり見ないという方もいると思う。

〔委員長〕

市役所まで来なければならないという、足の利便性の影響もあると思う。先ほどのスポーツフェスなど、もっと気楽に訪れる機会を捉えて周知してほしい。

再編については、現在ある施設の集約化を行って減らしていくのがいいのではないかという回答が多かった。

〔事務局〕

高齢者福祉施設・保育所については、民間施設も増えており、市の施設としては、集約・縮小の方向性で進んできている。

〔委員長〕

学校の統廃合は、議論されている最中と聞いている。アンケートでも、学校は残しておくべきという回答が多いが、教育施設だからというだけでなく、避難所の機能としても捉えられていると思う。

集会施設、博物館については、町会や地元の方にしてみればなくしてほしくないと思われるが、町会加入率も減っているのも、必要ないとの回答が多くなってしまっている。

その他の教育施設についても、廃止してよいとの回答が多い。施設が古いので、昔からご存じの方は機能だけ残して施設はいらないとの判断になったのかもしれない。

アンケート結果は結果として受け止めるが、このまま文字どおりに「必要ないから廃止してよい」とならないよう、丁寧に扱わないといけない。

〔事務局〕

その他の教育施設とは、教育相談所のことであり、不登校など様々な事情を抱える

児童に利用されている。施設の性質上、大多数の市民が利用する施設ではないが、利用している児童にとっては非常に大切な施設である。全体の意見としては必要性が低いという結果となったが、アンケート結果を根拠に廃止するというにはならない。むしろ近年でニーズが高まっている施設であり、老朽化対策として、建替えに向けた設計を実施している最中である。

〔委員長〕

潮止地区の回答結果は、他の地区と違う傾向が見受けられる。

〔事務局〕

潮止地区内には八潮駅があり、電車で市外に出てしまう方も多いため、他の地区とは多少異なる傾向となった部分はある。

〔委員長〕

高校生アンケートについては、利用したことがある施設は学生が使うスポーツ施設や図書館が多い。その他について、ここでも存在を知らない、使う必要がないと言われてしまうと、もうちょっとうまく使ってほしいとの思いがある。

中高生の居場所がないということが言われていて、そういうことを気にして施設の機能を考えたい。例えばダンススタジオなど、学校のクラブ活動とも違った活動場所が意外となく、駅前でたむろしてしまうといったことがある。地方だと、電車を待つ時間を想定して駅前にちょっとした場所を作ったところ高校生が多く集まったという事例もある。最近では、図書館を駅に作る事例も増えている。高校生が自由に居られて、親からしても安心な場所が、意外とない。カフェを併設していたり、多摩の図書館などは公園が目の前であってガラス張りで開放感があり、利用が増えている。

〔事務局〕

中高生の居場所という意味では、文化施設である楽習館が勉強等の場として機能している。いわゆるサードプレイス、学校と家庭の間の居場所として、図書館で勉強している学生も見受けられる。

2) 公共施設マネジメント基本計画の素案について

今後、40年の更新費用について、単純更新した場合と長寿命化を図った場合の試算について説明した。また、各施設の基本方針については、8～9月に行った各施設

所管課へのアンケート調査を踏まえて作成した旨、説明した。

〔委員長〕

長寿命化することで、更新費用を抑えていくということである。

〔事務局〕

資料2の1ページのとおり、耐用年数の到来と併せて単純更新するという方法は、費用負担が一時期に集中するため現実的ではなく、長寿命化して負担の平準化を図るというのが全国的なトレンドとなっている。

3ページについて、当初の10～20年は長寿命化により費用が抑えられるが、30～40年後には、長寿命化した施設が更新対象になるため、更新費の発生により効果が薄れていく。将来的な負担軽減を図る必要があり、この時期までに施設の再編や集約化を進めていく必要がある。

〔委員長〕

こういう状況であることを市民の方にもよく見ていただいて、機能を集約していくということを理解していただいたうえで進めていくことが重要である。

〔事務局〕

長寿命化により負担の平準化を図ったとしても、物価高が続いていることや、将来の人口減少が予測されていることを踏まえれば、それらを見据えて更に切り込んでいく必要がある。以前の委員会において、人口推計とリンクさせて考えていくことが大事であるとのこと意見をいただいたところであり、そのとおりだと考えている。

3) 公共施設マネジメントアクションプランの素案について

公共施設マネジメントアクションプランの素案について、推進方策、課題と今後の取り組み等について説明した。

〔委員長〕

アクションプランは今後10年の計画であるが、直近10年に大きな動きはなく、その次の10年に大きな再編があるのだろうという感想を持った。その時になって困らないように、今のうちから粛々とやらなければいけないことをやっていくということであろう。

〔事務局〕

議事2で説明した更新費用については既存施設を基に算出したものであるが、他にも給食センターをゼロから作るといった話や、新設小学校、北部にスマートインターチェンジとともに道の駅を整備する話など、新規のものがたくさんある。それらを実施した上で、20年後には長寿命化した施設の更新時期が迫ってくるので、既存施設については、人口動態も見据えながら、ある程度縮小していく方針を出していないと厳しいと考えている。

統廃合となった際は、跡地の活用をどうするといった議論も大事になってくる。

〔委員長〕

この会としては、今後どのようなスケジュールになっていくか。

〔事務局〕

順当に行けば、素案作成後にパブリックコメントを3～4月頃に実施し、来年度8月頃に改定したいと考えている。

〔副委員長〕

推進委員会としては、どのような諮問を受けているのかを、改めて確認したい。基本計画等の大きな考え方について意見すればいいのか、本文そのものについて答申するものなのか。

〔事務局〕

基本計画、アクションプランの本文について答申をいただきたいと考えている。

〔委員長〕

それならば、素案の本文について、この会で議論する必要がある。

〔事務局〕

承知した。スケジュールを見直し、今年度3月に第5回推進委員会を開催することとし、素案の本文についてご審議いただくこととしたい。

〔副委員長〕

今回の計画の中では、受益者負担については触れないのか。アンケート結果を見る

と、ヘビーユーザーは必要だと言っていて、そうでない人はいらなと言っており、利用者は限定的である。それならば、施設の維持管理費を、全体から回収すべきなのかという視点もある。優先順位を考えると、施設は残していくけれども受益者負担を考えて利用料金を上げていくという話はセットだと考える。

〔事務局〕

市民アンケートでも項目として入れていたが、クロス分析には入れ込んでいなかった。アンケートの回答でも、利用者負担を上げるべきといった意見について回答は多かったところである。機会を捉えて料金改定するなど、受益者負担を増やすことも考えなければならぬ。

〔副委員長〕

受益者負担について、5市1町の中でもやり始めているところもある。考え方を、文言として入れたほうが良い。

〔事務局〕

いただいた意見を踏まえ、考え方を記載する方向で検討させていただく。

なお、八幡公民館においては、大規模改修に合わせて施設利用料を上げたところである。

3 その他

次回の開催予定は3月頃を予定している。

4 閉会